

ローレンス ブラウン（米国）：改宗記（前半）

説明： この記事の説明：改宗記の性質と、そこに存在する宗教を問わない共通点。

より ローレンス ブラウン

掲載日時 06 Dec 2009 - 編集日時 12 Dec 2009

カテゴリ： [記事](#) > [新改宗者ムスリムの逸話](#) > [著名人](#)

私はこれまでに散々、自分がいかにして、なぜムスリムになったかを繰り返し質問されて来ましたが、それに答えるのも今度こそは最後になることを願いつつ、筆を執ろうと思います。また私は個人的な教訓が述べられていない限り、改宗記には意味がないと思っているので、まずそれらの教訓に関することから始めたいと思います。



改宗記というものにある種の特別な魅力があることに疑いはなく、またそこにもきちんとした根拠があります。そこには度々、改宗者が世俗的世界から精神的世界へと転機するきっかけになる、人生を変えるドラマチックな経験が記録されています。そしてそれらの試練を経験した人々は「人生の意味」について考え始め、「誰が我々を創ったのか?」、「我々はなぜここにいるのか?」などの大いなる疑問に生まれて初めて直面するのです。しかしそれらの改宗記には他の要素もあり、その一つとして、彼らが直面するそういった試練において一様に身を低め、人生で初めて真摯に祈りを捧げるということがあります。私はそれらの共通性に好奇心を掻き立てられ、その重要な教訓に気付いたのです。まずこういった改宗者の大半は、試練やパニックに陥った際に、仲介者を立てずに神へと直接一心に祈るのです。例えば三位一体説を生涯に渡って信じ続けて来た人でさえ、大惨事に直面すると反射的、もしくは本能的に、決して三位一体の一部などではない、神自身へと直接祈りを捧げるのです。

例えば、次のような話があります。有名な福音伝道者のテレビ番組の中で、あるゲストの女性が自分の信仰を新たにさせたエピソードを語りました。彼女は船が沈没する悲惨な事故に合い、その中でただ一人生き残ったのです。彼女は何日にも渡る海上での漂流体験の中で、神がいかに彼女に語りかけ、導き、そして保護してくれたかを語りました。もう大体お分かりでしょう。約10分に渡って彼女は話し続け、それは実際にドラマチックでうっとりさせるものでしたが、その話の中で彼女は神がいかにこれこれこのようにし、そして彼女はかれの慈悲を乞い願い、神だけに祈りを捧げたかを述べます。しかし彼女が通りかかった船に救出され、船のデッキに引き上げられた瞬間、彼女は両腕を広げて「ありがとう、イエス様!」と叫んだと言うのです。

ここには真摯さに関する教訓があります。パニック状態や精神的重圧下にある状況において人々は本能的に神のみへと直接祈りますが、安全な状況になったと分かるやいなやそれ以前の誤った信仰に戻ってしまうのです。尚私たちは皆、キリスト教徒がイエスと神は同等であるとするを知っていますが、それに関する議論を繰り広げたい方はこの議題に関する私の著作The First and Final Commandment (Amana Publications) をお読みになることをお勧めします。そしてそれ以外の方々に私は、「本当に

救われた者とは誰なのか？」という質問を投げかけたいと思います。改宗記というものは数えきれないほど溢れており、これそれぞれの宗教の神がその人物を助け、改宗者たちは皆救済による奇跡によって、真実の道を歩んでいると認識します。しかし神は唯一であるため、真実の宗教は唯一でなければなりません。正しき集団は唯一であり、そしてその他全ては迷いの中にあるのです。それらの改宗記で述べられる奇跡は彼らの信仰ではなく、不信仰を確証させるものとなってしまっているのです。神は聖クルアーンの中でこう教えます：

“ ...神は、御好みの者を迷うに任せ、悔悟してかれに返る者を導かれる。 ”
(クルアーン 13 : 27)

...また、このようにも述べられています：

“ だからアッラーを信仰し、しっかりかれに縋る者は、やがてかれからの慈悲と恩恵に浴させていただき、正しい道で、御許に導いていただけよう。 ”
(クルアーン 4 : 175)

こうして不信仰によって迷い去った者は、彼ら自身の選択によって、迷うに任されるのです。

しかし信仰というものの強さは、それが例え間違った方向に向けられていたとしても、悔むべきではありません。私自身の改宗記によって、誰がムスリムになるのでしょうか？それは私ただ一人だけなのです。ムスリムたちは私の話に励みとなるものを見出すかも知れませんが、ムスリムたちが他者の奇跡話を聞き、それによって彼らの祈りが守護聖人や三位一体の一部、または唯一神以外の何ものかに向けられたと知った時に絶望の溜息をついて首を振るように、別の人々はそこから何も見出さないかも知れません。もしも誰かが私たちの創造主以外の何か、または誰かに祈りを捧げるのであれば、その祈りに神以外の誰が答えるのでしょうか？道に迷い去る者に対して、彼らの特定の趣向や不信仰を確信させることを目的とする特定の「誰かさん」でしょうか？ひょっとしてその「誰かさん」の専門の目的は、人類を墮落させることでしょうか？

これらの質問にどう答えるのであれ、この問題はThe First and Final Commandmentにて詳細に述べられており、興味のある人々はそれを調べてみるのも良いかも知れません。では次に、私の改宗した経緯についてお話ししましょう。

この記事のウェブアドレス：

<http://www.islamreligion.com/jp/articles/502>

Copyright © 2006-2011 www.IslamReligion.com. All rights reserved.